

科目名称 (Course Title)				担当教員 (Instructor)	
企業財務論				齋藤 達弘	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	3年次	講義	無	無
授業の概要 (Course Description)					
<p>企業財務論は経営学と経済学の両方にまたがる学問分野である。経営学から見ると、四つの経営資源「ヒト・モノ・カネ・情報」の「カネ」に関する経営学である。経済学から見ると、金融・資本市場の経済学であり、企業金融の経済学である。</p> <p>この授業は、統計学と財務会計論を踏まえ、ミクロ経済学に基づく企業と株式市場の経済学であり、財務（諸表）分析や（企業）経営分析ではない。したがって、統計学と財務会計論、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。</p> <p>授業は講義ノートの章立てにしたがって進める。この授業では経営資源を効率的に活用するための財務意思決定の考え方を学ぶのだが、その考え方とは「戦略」という言葉でイメージされる「財務戦略」ではなく、いつでも、どこでも適用できる「ルール」である。授業は、予習に基づく報告や意見を受講生と質疑する形式で進める。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
この授業の到達目標は、企業財務論（コーポレート・ファイナンス）の考え方（数理モデル）を理解し、道具（ツール）を習得し、現実の分析に応用できるようになることである。					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンスと企業財務論の全体像				
第 2 回	補足資料 確率変数の計算ルール（統計学の復習）				
第 3 回	講義ノート 第1章 用語と視点				
第 4 回	講義ノート 第2章 キャッシュ・フローの現在価値				
第 5 回	講義ノート 第3章 純現在価値（NPV）ルール				
第 6 回	講義ノート 第4章 配当割引モデル（DCFの応用）				
第 7 回	前半のまとめ				
第 8 回	中間試験と解説				
第 9 回	補足資料 単回帰分析（統計学の復習）				
第 10 回	講義ノート 第5章 資本資産評価モデル（CAPM）と証券市場線（SML）				
第 11 回	講義ノート 第6章 MM（Modigliani and Miller）命題				
第 12 回	講義ノート 第7章 レバレッジ効果				
第 13 回	講義ノート 第8章 資本コスト（WACC）				
第 14 回	講義ノート 第9章 プロジェクト（割引率）の選択ルール				
第 15 回	後半のまとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
授業は授業計画にしたがって進める予定である。次回の内容（講義ノート）を予習し、報告や意見の求めに応じる準備しておくこと。					

成績評価の方法と基準(Grading)		
評価方法	(割合)	評価基準
中間試験 期末試験	(50%) (50%)	秀：キーワードや考え方、モデル分析を特筆すべき水準で理解している。 優：キーワードや考え方、モデル分析を適切な水準で理解している。 良：キーワードや考え方をおおよその水準で理解している。 可：キーワードや考え方を最低限の水準で理解している。 不可：キーワードや考え方の理解が最低限の水準に達していない。
テキスト (Textbook)		講義ノートを用いる。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)		砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門<第2版>』日経文庫、2017年。 森直哉『図解コーポレートファイナンス [新訂版]』創成社、2016年。
備考 (Other Information)		授業計画に則して進める予定であるが、状況に応じて授業計画を変更することがある。また、受講者数により評価方法を変更することがある。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)		メール連絡。